

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100113		
法人名	盛岡医療生活協同組合		
事業所名	盛岡医療生活協同組合 仁王ケアセンター すみれグループホーム		
所在地	岩手県盛岡市名須川町20-34		
自己評価作成日	平成26年3月4日	評価結果市町村受理日	平成26年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390100113-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力病院が同法人内にあり、連携が密に取りやすく医療面でのサポートが充実しています。また、同様に管理栄養士が献立作成、栄養管理を行っているため、栄養バランスが良く、季節感あふれる旬の食材を取り入れたメニューを入居者様の特徴や有する能力を活かしながら、家事分担をし、調理にも参加される事で楽しみながら美味しく食事を召し上がっていただいています。一体感のある生活空間で温もりが感じられ、その中で馴染みの関係が築かれ、安心して暮らしていただける環境です。入居者様一人ひとりに寄り添いながら、きめ細かなケアに努めております。盛岡市中心部に立地していることから、ご家族の皆様にお気軽にいらしていただいております。また、町内会や地域、子供会などの方々のご理解ご協力をいただき、交流を深めながら地域に密着した生活を送ることができます。

盛岡医療生協の運営するグループホームであり、地域に居る2,000名余りの組合員が、様々な面でサポートを行っている。温泉旅行も兼ねた家族会は、利用者、家族、組合員、ボランティア等総勢56名の参加で行われ、入居を希望する家族の参加もあり、非常に楽しく有意義な時間を過ごしている。すみれ祭りにも多くの地域の方や、組合員の方が参加し、盛大にお祭りが行われている。事業所として地域の自主防災隊に参加し、避難訓練には、地域の方に利用者の避難誘導をお願いしている。このグループホームの取り組みで特筆すべきは、看取り介護が自然な形で行われているということであろう。医療生協グループ内の病院の往診体制を背景としてはいるが、家族や医療、職員間で度々話し合いを行い、看取りの意思を確認しながら進められており、職員にも気負いが無い。ここで亡くなることをその人の最期の生き方として、しっかり受け止め支えようとする職員がおり、利用者も互いに気にかけて、静かに別れが来ているということは素晴らしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療生協の介護」をもとに、開設時作成した理念を継続している。理念をもとに日常の支援に取り組んでいる。個人ネームの裏に個々に理念を書き込み意識を高めている。常時確認出来るよう提示している。	利用者の「自分らしい生き方」を支えていきたいという職員の想いを運営理念としてまとめ、事業所内に掲示している。更に職員のネームの裏に各自が理念を手書きし、常に意識するように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進委員として、町内会長や民生委員が参加していただき、町内の現状や情報を提供していただいている。広報を年4回発行し、本町・上田地区の法人組合員を通じて配布している。	町内会や自主防災隊に加入しており、会合や防災訓練の説明会等にも参加している。中学生が事業所を訪れ、お茶の振舞をしてくれたり、近くのお寺で行われるクリスマスコンサートに招待を受けている。すみれ祭りは、医療生協組合員の協力を受けながら近くの駐車場で盛大に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ建物の認知症デイサービス・居宅支援事業所と協力して広報を発行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや入居者様の様子・課題等を協議している。民生委員、町内会長から地域の情報提供していただいている。また、月毎に持ち回りでご家族様に参加していただき、意見などを伺いながら、サービスに反映している。	H25.11月に行われた家族会の温泉旅行の様子を当日の映像も交えて運営推進会議で紹介し、事業所への理解を深めていただいている。1月の会議では、職員の異動の内容を家族にもきちんと伝えてほしいとの要望が出されるなど、意見・要望などの出しやすい雰囲気となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の生活に係る事や運営上の問題等、困ったことは、随時連絡、相談している。市主催の集団指導会に参加している。高齢福祉課からメールなどによる連絡を受けている。	事業所の防災スプリンクラー設置助成金について相談している。利用者の認定調査に市職員が訪れたり、生活保護担当の職員と電話でのやり取りが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、当法人では身体拘束の学習会を開催し、周知に努めている。建物のセキュリティ上の問題で、エレベーターの乗り込みに暗証番号の入力が必要だが、入居者様が希望された場合は、随時対応している。	事業所内に「身体拘束排除宣言」が掲示されている。事業所は2階にあり、エレベーターの乗り込みには暗証番号の入力が必要で、利用者は自由に出入りできない状況となっている。	エレベーターの使用が自由にできない状態は利用者にとどのような影響を与えているのか、どのような目配り気配りをすれば自由に入出入りできる状態を保証できるのか等職員間での話し合いを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人では虐待防止の学習会を開催し、周知に努めている。入居者様の自室でのケアにあたる場合も、職員同士声を掛け合い所在を明確にしている。入居者様の身体に出来たあざやキズについて発見した場合はカンファレンスで取り上げ、予防対策も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	来年度は学習会を予定しており、入居者様の状況の変化により、必要時適切に支援できるよう体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所内の雰囲気をも感じて頂きながら、書面にて説明を十分に行い、理解・納得頂いた上で、契約を締結している。疑問や不安なことが生じた場合は、その都度説明・相談に応じ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に窓口を掲載している。また、家族会を開催し、交流の場を設け意見、要望を求めている。	家族会の開催時期について要望が出され、また利用者の温泉に行きたいとの要望を取り入れた形で家族会が開催され、非常に好評であった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議を設け、現状の課題などを出し合い、その都度職員の意見や提案を聞き、反映させている。	職員から出された意見をすぐ取り入れ、改善するように努めている。職員の提案により、事業所内の棚の角を丸くしたり、連絡網の流れを修正したりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当法人には労働組合があり、職員の要望や意見等は労働組合を通じ環境の整備、労働条件等を話し合っている。また、職責者会議等で職場の状況説明・改善等を話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人が企画する研修や学習会に参加しており業務保障されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にある、他事業所の職員等と会議・学習会の場で情報交換する事ができる。日常の業務の中でも建物内にある認知症デイサービスや居宅支援事業所の職員と交流を図っている。グループホーム協会などの研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様に話しを伺い、思い等をカンファレンスシートに記載し、ケアプランに活かしている。日常生活の中の関わりからもご本人様の思いを受け止め、役割などを持つ事で自然な関係が築けるようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、入居申し込み時等にご家族様の心配ごと、不安なことに耳を傾けながらじっくりと伺い、安心しながら生活を送れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、入居申し込み時に来所された際、すみれグループホームの概要を説明し、ご家族様より、現在の状況等を伺い、必要時は担当ケアマネージャーへの相談をおすすめしたり、連絡をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分らしさを大切に、楽しみ、喜びを一緒に感じ合いたい」を目標にご本人様の思いを尊重し、いつでも共に生活する関係を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の開催、ご面会時に近況の様子や普段の様子、外出時など写真に収めたものや作品などをお見せし、日常の様子が分かり、絆を深めながら家族と共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、ご家族の来訪や行きつけの美容院等へ通う事等入居者様の好きな事、人とのつながり、大切に出来るように支援に努めている。デイサービスと合同でダンスレクに参加し交流を深めている。	馴染みの美容院や菓子店に出かけている。デイサービスのダンスレクに週1回参加し、馴染みとなった職員や利用者との関係を維持している。また、ドライブの途中で偶然利用者の自宅周辺を通りかかり、道案内をしてもらったこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を十分に把握し、聞こえなどの問題で会話が上手く理解し難い入居者様同士には、座席などの配慮や職員が仲介をする等、寄り添い、良い関係が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、長期入院治療のため退去となった入居者様のご家族様より、転院後の御相談を受け賜わり、他事業所の情報提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様のお話を伺い、ご本人の思いや希望を確認し、ご本人を尊重したケアプランを作成している。また、身体の状態の把握、入居者様の希望やできる事を検討しケアに反映させている。	入居時に、家族や利用者からの聞き取りを行っている。何気ない日常の会話を聞き逃さず、行事計画などに反映させている。テレビを見ながらつづやいた「ラーメンが食べたい」という言葉から、小岩井にドライブに行き、ラーメンを味わってきたこともある。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに記載している。カンファレンス開催時、職員一人一人が確認し新しい発見があった時は、職員が共有しケアプラン作成に役立てるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて確認すると共に、変化があった場合は業務日誌に記録し職員の情報の共有化を図っている。また医療面での支援が必要な変化については医療情報に記録し、支援を求めている。日常生活の中で有する能力の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様の意向や要望を確認することを大切に、カンファレンス等で検討のうえ、ケアプランを作成している。	日常生活の中で利用者が「できること」「できないこと」の把握を行っている。以前は、できていたことが、できなくなった時にも、常に今「できること」はなんだろうという視点でケアプランを作るようにしている。家族に来訪いただき、生活の様子やケアプランについて説明を行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人一人の生活記録があり、毎日の生活の様子を記録すると共に、新たな気づきや変化などを業務日誌で申し送り、日々のケアやケアプランの見直しに活かしている。。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族の意向を伺いながら、美容院への送迎、出張理髪店との連絡等の支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回消防署協力にて避難訓練を実施している。地域の美容院利用時では美容師が利用者様を理解し、安心して過ごせるように配慮してくださっている。調剤薬局の薬剤師との服薬の管理も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医について入居者様、ご家族の意向を確認し、個々のご希望に合わせた受診を行っている。身体状態変化にも応じて入居者さまご家族様と相談のうえ、各専門医療機関への支援も行っている。	内科については、川久保往診クリニックの往診もできることを説明し、利用者、家族にどうするか選んでもらっている。往診は、月に1~2回行われている。外科については今までのかかりつけ医の受診が行われ、家族や職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションとの医療連携契約を行い、週1回看護師の訪問を受け、健康管理や医療面での助言を受けている。また、定期的に医療の支援が必要な入居者様に往診や訪問看護の受け入れを支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院医療機関へ入院に至るまでの生活状況の情報を提供し、治療状況等を把握するためご家族様に連絡を取りながら、医療機関との情報交換を行い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、入居者様、ご家族様の希望を尊重しながら、医療連携の協力機関である川久保病院在宅診療科や訪問看護と十分に検討を重ね、入居者様、ご家族様が安心して暮らせるような体制をととのえ支援した。	看取り介護が行われており、H25.10月には全国グループホーム大会で実践報告を行っている。家族、医療、職員間でどういう看取りを行うか何回も話し合い、確認をしながらすすめている。利用者も自然な形でお別れができており、職員も不安や抵抗感を少なく看取り介護を受け入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変に対する対応マニュアルを作成し、全職員で周知徹底し、適切な対応ができるよう努めている。状況によって受診、救急搬送が必要な場合は、職員間での連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、消防署立ち会いの避難訓練を年2回行っている。職員間の緊急連絡網名簿を作成した。	昨年の目標達成計画に基づいた実践が意欲的に行われている。昨年8月からは毎月防災訓練を行っている。地域の自主防災隊には利用者の避難誘導をお願いした。その都度反省を行い、誘導の仕方、職員の声の大きさなど課題を明らかにしつつ、訓練を繰り返している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の自分らしさを大切に、特に耳の聞こえにくい入居者様には耳元に近づきゆっくり周りに気を配りながら声掛けを行い、個々を尊重し合い対応している。個人情報の取り扱いについても注意を払い、毎年学習会も設けている。	お風呂やトイレの声掛けは、利用者の耳元で行い、周りに聞こえないよう配慮している。利用者の言わないでほしいことは決して口に出さず、職員の情報交換は利用者から離れた所で行っている。個人情報保護法についてクイズ形式を取り入れながら学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、家事などをお願いする際は「〇〇していただけますか」と、自己決定出来るような声かけをし、日々入居者様の思いをくみ取りながら、認知症状の理解に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はあるが、入居者様、個々の思いや時間の流れを尊重した対応に努めている。個々のペースに合わせ、時間がかかっても有する能力を活かした生活を送れるように支援してる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が困難な入居者様には、何枚か衣類を見せ、選択しやすいように支援している。起床後の洗顔や頭髮の整えなどできるだけ鏡を見ながら行っている。理美容については適時、近隣の美容院に行ったり、訪問理容を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、当法人が経営する病院の管理栄養士が、作成し、調理は入居者様と一緒にしている。禁忌食がある入居者様には代替えの物を提供している。	米とぎや食事の盛り付け、食後の食器の片づけや茶碗拭きなどをそれぞれの力に合わせて利用者が行っている。ご飯茶碗や汁椀、箸、湯呑みは各利用者の馴染みの物が使用されている。食べたいものはおやつに組み入れたり工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人が経営する病院の管理栄養士が、栄養バランスを考慮した内容で提供し、食事摂取、水分摂取確認票を活用し、摂取状況把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯洗浄の声掛け、ご自分で出来ない場合は支援を行っている。就寝時には必ず義歯を外し、また週3回は薬剤を使用した洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄の状況に合わせ、羞恥心に配慮しながら支援をしている。排泄の訴えがない入居者様はおおよそのパターンを決め排泄誘導し、リハビリパンツ、尿取りパットの交換が必要な場合、入居者様に声掛け確認を行いながら対応している。	排泄チェック表を参考に、時間ごとに誘導を行っている。パットを汚さずにトイレに行くことができるように支援したいと考えている。夜間オムツを使っている利用者がおり、見直しを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立のほか、季節を問わず、こまめな水分摂取の支援をし、1日のうち身体を動かす機会を設けるように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、午後から実施しているが、入居者様の希望に沿って入浴している。入居者様の身体状況を伺いながら、時間や曜日の調節を行っている。体調により入浴が出来ない場合は清拭など対応している。	毎日お風呂を沸かし、各利用者には週3回程度入浴していただくようにしている。回数を増やすことも可能である。自分でできることはやっていただき、入浴できない時は、足浴や清拭に切り替えている。今後、隣接のデイサービスでリフト浴を設置予定であり、使用が可能となる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩をとりたい入居者様には、自室でいつでも自由にゆっくり休めるように居室へ誘導するなど配慮している。気持ちよく、お休み出来るように室温や採光調節等の配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに処方薬の説明がかかれた書面をファイルし、常に確認出来るようにしている。不明な点や体調に変化がある場合は、医師、薬剤師に相談し指示を仰いでいる。薬は職員が預かっており、処方箋に沿ってお渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅での生活歴、習慣を調理、清掃、洗濯干し、洗濯たたみ、買い物等の日常生活に生かす支援を行っている。また、以前から行っていた趣味活動が継続出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候、入居者様の体調を考慮しながら、入居者様の希望に沿えるように外出の支援をしている。	ベランダで米や枝豆を育てたり、日光浴を楽しむようにしている。近くのコンビニや薬局に出かけながら周辺を散策したり、お菓子やお花、日用品の買い物に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者様は買い物等の支援を行っている。金銭管理が難しい入居者様についても、希望時にはホームの立て替え払いで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から、ご家族様、友人、知人へ電話がしたいと希望された際には電話を掛けるお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーター前のスペース、居間の壁面等を利用して、季節の行事に配慮した飾り付けを一緒に行っている。採光はカーテン等で調節している。	狭いスペースでも利用者が椅子やテーブルにぶつかることがないように、また足元に物を置いて利用者が転ぶことがないようにと職員の気配りが行われている。採光、加湿、室温の管理を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活の中ではそれぞれの席で過ごす、窓際やエレベーター前のソファーや椅子で気分転換が図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ができるだけ、ご自宅で使い慣れた物を持ちこんでいただけるよう説明している。自室はそれぞれ使いやすいように家具やベットを配置している。	それぞれの利用者の個性に合わせた居室となっている。家具の配置も工夫され、夫の遺影に生花が飾られ、趣味で作った人形に囲まれた居室もあれば、枕元に好きでよく聞くラジオが置かれた居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は段差がなくバリアフリーだが、歩行が不安定な入居者様の安全に配慮し、見守り・介助を行っている。毎日よく使う掃除道具は分かりやすい配置にしているが、薬品類は別の棚に収納する等自立と安全に配慮した環境づくりに努めている。		